



埼玉県 齊藤 信



この言葉は、私が定年退官を迎えた人に書き送っている言葉の一節であります。

また、ここで平均寿命と言っているのは0歳児の平均余命であり、六〇歳の男性（女性）の平均余命は、平均寿命から六〇を減じた年ではありません。

同時に発表されている年齢別の簡易生命表によりますと六〇歳の男性（女性）の平均余命は二・九八（二・七・四九）と〇歳児の平均寿命より三・六二（二・一六）年多くなっております。そしてこの平均余命は、毎年少しずつ延びてきております。

自衛官が定年退官する人の多くは五〇歳代後半であることを思うと残された第二の人生は第一の人生で勤めた期間に匹敵するぐらい残されており、この期間を大切にしたいという思いが冒頭の言葉であります。

私は、退官に際し援護関係者の  
ご支援により、通信電子関係の製

事業部・工場等の研修を一通り終え、  
ると比較的時間の余裕を持てる  
ようになりました。

自衛隊に在任間は、野外令・師団幕動或いは服務規則・補給整備規則等の自衛隊関係の勤務・規則等を手に取り熟読し、勤務の拠り所としていたしたが、入社後には余裕のできた時間を利用して企業を理解するに必要な商法・労働基準法等の法律を読み始めました。

そんな或る時、友人から法律を勉強するなという何か国家資格を目標に持てば理解も進むし、資格が取れば一挙両得だよと言われ、民法・刑法等へと深みはないものの範囲を広げていきました。

入社後三年余り経過した頃、諸先輩から親会社の製品を梱包・輸送する物流子会社の社長にならなうかと勧められ、好運に恵まれ、

三期六年子会杜の代表取締役社長を勤めさせて頂きました。

自衛隊出身者は「お金の使い方は上手いが、お金の稼ぎ方は？」  
と言う声も耳にしましたが、自衛

隊で学んだ目的・目標を確立し、これを達成させる思考過程は、企業で利益を得ることに也十分通ずることを経験しました。

更に、組織力を発揮する自衛隊での勤務経験は、ともすると個人への力に頼りがちな中小企業の職人の気質の従業員集団から、一人や二

人のベテラン従業員が欠けても組織の力は衰えない技能集団へと改革していくことに役立ちました。

また、親会社在勤間に予め読んでおいた商法・労働基準法及び貨物自動車運送事業法等が業務処理に大いに役立ち、戸惑うことも少

なく経営の任を全うすることができました。

埼玉県 田中 常光



人生八〇年だろうとそれ以上だろうと仕事を通じて学ぶことが次の仕事に役立つ流れを積み重ねて行けば、ばけることなく生き生きと人生を送れるものと信じ、新たな目標を見つめている毎日です。残された人生を退屈しないようにとのおもいで・・・・。

項審査の理解に役立っています。

**自由業は不自由**

埴

田業

玉県 田中 常光

第一の人生は国のために、第二の人生は会社のために働いてきたので、第三の人生ぐらゐは、自分のためになかやうたいと思っていました。



のしだいときに仕事をして、疲れたら休憩して、気が向かなければ休めるし、毎日気軽にのんびりとマイペースで仕事ができるものと考えていました。ところが、現実はその甘くはありません。第一、自宅でのんびりとしている新米の社会保険労務士のところへ仕事を頼んでもそのような顧客「お客さん」はどこにもおりません。まず、仕事を探すことから始めなければなら

自分が主体となって考え、自分の判断で行動する。これができるとは、自営業しかないと思ひ、社会保険労務士として開業しました、平成一四年八月一日付で登録し、晴れて一人前の自営業者です。

社会保険労務士は、いわゆる自由業といわれております。第一の人生では、自衛隊という巨大組織の中で、明確な任務と地位役割が与えられ、長門の警務室で十

りません。社会保険労務士の仕事は、主に、労働や社会保険の諸手続や労働問題・年金等の相談（コンサルティング）業務ですが、そのためには、顧問先として、定期的な仕事を請け負う、事業主としての顧問契約を結ばなければ、よい仕事はできません。顧問先を獲得するのといっても、この不況下、会社側の倒産続出のこの世には、顧問先

をはじめる。長期の膨張と定常成長を  
を。はじめ、中期、年度、期の計画  
があり、月間、週間予定表。そして  
毎日の時間計画まで、しっかりと  
とした管理の中の仕事でした。  
そして、第二の人生も、会社員とし  
て、社長以下の役員のもと、部長、  
課長等会社組織の中で、事業  
計画も、中期的なビジョンのもとと  
年度、期の計画等、自衛隊ほどでは  
ないにしても、しっかりと管理

開拓した顧問先は、まだわずかな件数のみですので、現在は、もっぱら年金相談・セミナーを主体に活動しています。この年金相談・セミナーが、また、不自由な仕事で参っております。週に一度か二度、市内の事務所で年金相談の担当をしておりますが、全国各地の契約

された中での仕事にかわりはありません。

当初、自由業というのは、上司

郵便局や銀行・信用金庫等からの電話及びファックスの相談に対して、電話は即答を求められますし、

東京都室本弘道



ファックスも約一時間ないし二時間以内にファックスで回答しなければなりません。これは、上司からのご指導がない代わりには、お客様のかびしいご指摘が待っております。最近はや金に関する関心の高まりから、相談件数が激増しております。相談担当の方は、朝から夕方まで、まったく息を抜く暇がありません。また、地方へ出張しての年金相談もありますが、これが、たいいてい土、日に決まっています。年金相談を受ける人達は、定年前の人が多く、多忙なため、いきおい土、日になってしまいます。このため、趣味のテニスや釣りも思うようにできないのが痛手です。

相談だけではありません。各種  
勉強会も土、日に集中します。知  
識が売れるもの、この商売、質のよ  
い商品（知識）を仕入れるために  
勉強会への参加は欠かせません。  
このようなわけで、当初夢見を  
気楽な稼業とは、まったくかけ離  
れた不自由な仕事をしてあります  
超高齢社会の二十一世紀において  
高齢者の雇用と年金に深いかかわ  
りのある仕事で、世のため人のた  
め、何がしかのお役に立てれば  
いいしながら、信友の大先輩で、八  
十歳を超えてもなお現役社会保険  
労務士としてバリバリと活躍して  
おられる吉岡睦生先生を見習いな  
がら、がんばっております。



温泉とや

車

きもの

京都 室本 弘道

に入ったのか写真と一緒に整理してある。

信友会という言葉も久々に伺ったような気がする。自衛隊を退官し、すでに三つもの職場を転々として、結局は自衛隊仲間を思い出している自分に気づくこの頃である。

やきものの方は、無釉薬のぐい呑収集から始めたが、次第に収集範囲が拡大し、平成十一年「苦小牧駒澤大学やきもの美術館」のオープンにこぎ着いた。

ぐい呑のコレクションでは窯数日本一との評価を頂いた。何しろ日本中くまなく約千窯をリユウックバック背負って歩きまわった成里である。そんな馬鹿なことをする人はいない、ましてやプロはすな

るが、わが青春を傾けた自衛隊は決して間違っていないかったと、胸を張っている。国民の信頼は益々高まり、若い隊員達が日頃頑張っている姿に感謝と応援を送りたい。私事で恐縮だが、米国防衛駐在官生活が終った頃、日本に帰ったら新しい趣味を始めようと考えていた。「やまもの」と「温泉」なら六十歳過ぎてでも続けられると思っ

数年は病篤じてついに世界のやきものにもでて手を出し、今年四月にオープンした「武蔵野学院大学やきもの美術館」（ネットでお楽しみください）では、「ぐい呑展示」のほか、「世界のやきもの展示」では国の数でおそらく世界一だろ  
うと思う。

素人のサラリーマンができるや

た。それから二〇年は早かった。それからの生活なので、自動車なしの生活なので、温泉巡りは大変で、成果の方はいまだ全国九百温泉程度である。いっどこ

きもの収集には限度がある。マインセンで三越と比較したり、名品集めで人間国宝浜田庄司氏と競争しても始まらない。縄文土器など骨

董集のもで上野の博物館と競争し  
も勝負は見えている。そこで知  
の勝ちはどうである。才能のな  
貧乏人は足で稼ぐしかない。プ  
とは名ばかりの窯元さんの作品も  
人間味あふみに集めてあげる  
れでもどのくらい集めれば美術  
なるレベルに近づくかは正直言  
て自信がなかった。日本各地を  
泉とやきもの求めて歩くうちに  
各地のやきもの展示を拝見し、  
別化に着目した展示をすれば、美  
術館と称しても許してくれるだ  
うと勝手に思うようになった。

「あんた！ 決して間違っても  
なんか始めちゃダメだよ！」名  
くの窯元でいわれる。東京を出  
ている窯の数は、おそらく百箇

「これは有田焼です」迄で、その千をはるかに超えるほどの窯は不明である。現地に行くしかない。現在北海道には約五百窯があるが、東京で北海道の窯のデパートを立つてゐることは、歌手のデビューよりも難しい世界ではある。けし趣味の範囲を超えてはいけぬ世界なのである。いつまで窯が統

られるのか本人にも分らない。人たちが輝いたときの作品を作家・窯元名まで親切に紹介する位置が求められているように思う。

「温泉」やきもの（仮題）における本の出版を試みています。若者の温泉好きと中年婦人へのきもの好きをドッキングします。左ページに温泉案内、右のページにそこの窯場を紹介する旅行誌です。資料の方はかなりそろっています。

までもなく干涸果目入瀬になりま  
が、その時は信友会の方と一緒  
したいと思います。温泉の好き  
な方、やきもの好きな方、写真  
好きな方、暇な方、この本の出  
に力を貸して下さいませんか。

方につきましては、同封の振込用紙により振り込んで頂きますようお願い致します。

振り込みのお願い





# 陸上自衛隊 通信電子 の現況

陸幕通信電子課

一 はじめに

陸上自衛隊の平成一六年は、イラク復興支援活動の先陣である先遣要員の出發で幕を開けました。イラク復興支援活動は、その後、第一次復興支援群が数波に分かれて派遣されて本格的な活動が開始され、逐次部隊交代を実施しつつ現在に至っています。まさに新しい時代の目標である「行動して評価される陸上自衛隊」に相応しい年明けでありました。

また、昨年は災害派遣の多い年でもありました。一月の香川県直島山林火災に始まり、三月には京都の鳥インフルエンザ、その後は多数上陸した台風による災害派遣にも数多く出動し、一〇月に発生した新潟県中越地震における災害派遣で年末を迎える状況となりました。

自衛隊が活躍した場面といえは、八月にその発祥の地「アテネ」で開催された第二八回オリンピック競技大会においては、日本中がメダルラッシュに沸いたわけですが、そのメダルの一つは体育学校から出場した男子レスリング・フリースタイル 六〇キログラム級の井上謙二曹が獲得した銅メダルでした。

陸幕業務に目を向けると、平成一六年度は、新たな防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画(平成一七年度・平成一八年度)の策定等、防衛力整備の基本となる事項を定める重要な年度であり、陸幕通信電子課におきましても、昼夜を分かたず、休日出勤を厭わず、総力を挙げて本業務に取り組んでいるところです。

二 主要通信電子器材の整備

この記事が皆様のお目に留まる頃から、方面隊電子交換システム(東北方面隊、師団通信システム(第九師団)、無線搬送通信装置一(中央野外通信群)、衛星単一通信システム(第八師団)、電子戦システム(通信学校)及び遠隔操縦観測システム(西部方面隊)等が逐次部隊に納入されます。新規整備としては、地上無線機(改)、個人監視眼鏡(行動用)及び西部方面隊に新規通信情報収集システムの主要整備である通信情報収集システムの量産初号機が納入される事となっています。

平成一七年度の主要な新規整備品としては、従来の方面隊電子交換システム及び師団通信システム(改)の改善型である方面隊電子交換システム(改)及び師団通信システム(改)(IDICS)をはじめ、電子戦システム(TSEJ装置)、基幹部隊指揮統制システム(ReCS)、新音源検定装置、地上レーダ装置一号(改)並びに地上レーダ装置二号(改)等目白押しであり、現在初号機獲得に向けて予算要求中です。

三 体制変換  
平成一六年度三月、防衛部に「情報通信・研究課」が新編され、陸上自衛隊の通信電子及びシステムに関する企画及び運用を担う体制が出来上がりました。

このほか、装備部開発課には開発第四班が新編され、陸自C4I2整備の体制が強化されています。部隊においては、平成一六年度三月に、一部の方面隊等において基地通信部隊とシステム管理部隊を一体化しましたが、引き続き同様の改編を全方面隊において実施し、ネットワークとシステムを一括管理することにより、一層の向上を図って参ります。

四 補給統制本部への業務移管  
時を同じくして、従来陸幕で実施していた執行及び中央調達業務を補給統制本部に移管しました。これに伴い、補給統制本部通信

電子部には補給計画課に調達計画班が新編されました。一方、陸幕通信電子課においては、調達業務を担当していたポストは削減され、予算要求業務等を中心とした組織に改組いたしました。通信電子課の執務場所も、A庁舎一階西の大部屋に、総括班、通信器材班、電子器材班及び電計班が全て入り、若干窮屈にはなりましたが、課内の意思疎通や情報の共有が容易になっております。

五 IDDN整備事業  
IDDN整備事業は、平成一六年度には地上マイクロ回線の整備が完了し、その後、部外回線によるルートの整備等を推進してありますが、平成一七年度三月には全ての事業を終了し、IDDN計画室は解散いたしました。このため、今後の新たなニーズへの対応等について、内局を中心として検討を進めているところです。

六 おわりに  
冒頭に述べたとおり、平成一六年度は激動の年でしたが、各種の活動を通じて、陸上自衛隊の通信電子については、高速・大容量のデータ回線や映像伝送回線の確保による情報の共有化が極めて重要であることが身をもって確認した年でもありました。このことに

思いをいたし、鋭意努力を所存でございます。また、通信電子のデータ回線や映像伝送回線の確保による情報の共有化が極めて重要であることが身をもって確認した年でもありました。このことに

## 事務局だより

一 近況

昨年は、異常気象・異常現象だったのでしょうか、台風・地震により全国的に多大な被害を受けました。会員の皆様の中にも、多少の影響をうけた方がおられると思います。あらためてお見舞い申し上げます。

それにしても自衛隊の活躍は目覚ましいものがあります。国家防衛をはじめ国際貢献、災害派遣及び変革期の将来を見据えた研究・演習訓練等多様な役割に猫の手も借りた状況ではないでしょうか。それだけの立場で引き続きしっかりと応援していきたいと思っております。

信友会創立四〇周年記念で「機関紙 信友」を増版して「会員より」に掲載したところ「彼も元気にやっています。電話してやう」「ここぞ活躍してるんだ。」等の声が聞かれました。また「機関紙 信友 特集版」では「最近の変革を主に編集しましたが「懐かし」思った方「自衛隊の変貌」に感嘆された方等「情報交換」や「絆の強化」の良い機会になりました。

「信友会」は、会員の皆様の協力と名簿幹事の努力により「データ管理化」が進み、追加・変更が容易になりました。記載内容の変更・最新情報が必要なのは事務局にお聞き合ってください。なお、信友会では、ホームページを開設して、



遠隔観測システム

## 編集後記

今号は、前号の編集完了後に通信団長に着任されました中村将補に御寄稿いただきました。お忙しい中をありがとうございました。また、第2の人生を卒業されて更に頑張っておられる会員の方々の「第3の人生奮戦記」といいうべきもの等々沢山の貴重な寄稿をいただきました。ありがとうございます。次号も多くの会員の皆様のご寄稿をお待ちいたします。

ところで、前号の創立四〇周年記念号で恒例の「会員だより」を掲載いたしましたところ、多くの方々から「先輩や同期や後輩や元上司や元部下の近況を知ることが出来たよかったです」というお言葉をいただきました。ただ、そのようなお言葉をいただくながら、二つの古いテレビ・コマーシャルを思い出しました。一つは、皆様もご記憶にあるかと思いますが、「わたし食べる」と

次号の四五周年記念号も多分同様の企画がなされることと思いますが、全会員が「わたし書くヒト」になっていただきたいと思っております。そして、送り出した往復書が全部返ってくることを祈念いたしております。大変貴重な編集後記になってしまいいし訳ありません。

平成一六年度信友会会計報告  
(H16.1.1~H16.12.31)

(単位:円)

| 収入       | 支出        |
|----------|-----------|
| 前年度繰越    | 4,963,288 |
| 終身会費     | 260,000   |
| 通信事務費    | 1,622,000 |
| 利子       | 3,339     |
| 第40回総会収入 | 2,662,000 |
|          | 第40回総会支出  |
|          | 2,659,974 |
|          | 地方交付      |
|          | 100,000   |
|          | 振込手数料     |
|          | 57,150    |
|          | 次年度繰越     |
|          | 5,300,339 |
| 計        | 9,510,627 |
|          | 計         |
|          | 9,510,627 |

以上のとおり報告します。

平成一六年度12月31日

会計幹事 細田 修

山本公志

監査の結果相違ありません。

平成一六年度12月31日

監事 山根健次

安部洋男